



サッカーを通じて 正しいマナーを学ぼう

特別プログラム①

マナーキッズ サッカー

in SUGADAIKA

今大会ではスポーツを通じたマナー向上の普及活動を行なっている
NPO法人マナーキッズ®プロジェクトが特別プログラムを開催。
大会ナビゲーターの元日本代表・北澤豪氏も自らの経験をもとに
サッカーにおけるマナーの大切さを語った。

試合後に健闘を称え合い握手をする選手たち。大切なマナーの一つだ



開会式では鈴木万亀子総師範が、参加者を前に、お辞儀の仕方を実演



NPO法人マナーキッズ®プロジェクト
田中日出男 理事長

平成8年にマナーキッズプロジェクトのきっかけとなった早稲田大学野球部小学生テニス教室を開始。三菱化学株式会社常務取締役、江本工業株式会社取締役社長を経て、平成16年4月から財団法人日本テニス協会で幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクトに携わり、現在は同プロジェクトディレクター。平成19年6月、NPO法人マナーキッズ®プロジェクトを設立し、理事長に就任。

参加した選手たちが、将来、世界で活躍するために基本的なマナーに触れてほしい。その願いを込め、スポーツを通じたマナー向上活動に実績のあるNPO法人マナーキッズ®プロジェクトの全面協力のもと、特別プログラムが開催された。

開会式では小笠原流礼法の鈴木万亀子総師範が、参加選手全員にお辞儀や挨拶の仕方を実践。「マナーとは、まず約束を守ることから始まります。そして、自分がされて嫌なことは、自分も人にはしない。最後に人の話を聞くときには、正しい姿勢で、相手の顔を見て聞くこと。3つの基本的なマナーについて説明。開会式後には参加者の保護者を対象に、子供への接し方、しつけ、叱り方などについての講演を行なった。

講演会には大会ナビゲーターの北澤豪氏も出席。「サッカーをプレーする

る上で、マナーはとても大切なこと。現役のときには必ずピッチに入るときにお辞儀をしていました。なぜなら、それはピッチが自分を成長させてくれるところだからです。厳しいプロ生活を経験し、日本代表として世界を相手に戦ってきた北澤豪氏の言葉に会場に集まった保護者からは盛大な拍手が送られた。

今回の特別プログラムを開催したNPO法人マナーキッズ®プロジェクトの田中日出男理事長が最後に挨拶。「子供たちはできないのではなく、教えられていないだけ。私たちは、そのきっかけづくりをしています。みなさんも、今回の講習をきっかけに、まずは保護者の方々が、子供を正しくしつけるという意識を持って、地域社会でも継続していてもらいたい。マナーの重要性を語り、講演を締めくくった。



小笠原流礼法 総師範
鈴木万亀子 総師範
小笠原流礼法 常任理事 本部教授
総師範小笠原流礼法32世忠統公に仕え、的伝総師範を継ぐ。玉川女子短期大学非常勤講師などを歴任し、現在、中学校3校の道徳講師を務める。NPO法人マナーキッズ®プロジェクトの理事としてスポーツを通じてマナー指導する傍ら、真田広之主演映画「たそがれ清兵衛」や木村拓哉主演映画「武士の一分」などをはじめTVドラマなどでも、所作指導多数。舞台劇、小笠原伯耆守などで後輩育成、小笠原流茶道古流、山田流等曲、茶花も教授し、企業研修指導も行っている。



大会ナビゲーターの北澤豪氏「ピッチの中の選手たちは尊重し合っているので、ピッチの外でもお互いを尊重していきましょう」と、保護者を前に挨拶